

メーブルレター(40)
イースターの鐘が鳴る

庭先の可愛いクロッカスの花が咲いたと友人から便りがきました。春先の色合わせの絨毯が広がっているようです。日本よりは二ヶ月ほど遅いかもかもしれません。この花の間に他の草や花が加わっていくのも、さほど遠いことではないでしょう。長かった冬がやっと終わり、あくびをしながら、草花が目覚ましつつあるようです。

イースターのお祝いがあった土曜日(4月11日)の午前11時に、町中の教会の鐘の音が鳴り響きました。この町はカトリックの伝導の名目でフランスが開拓し始めた町だけに、カトリックの影響が強く残り、100の鐘楼があると言われていました。今年は、ミサにはコロナウィルスの自主隔離のため、信者は参列しないのですが、せめてお祝いにと、100の鐘楼が一斉に鐘を鳴らしました。窓を開けると、隣のノートルダム教会の大きな、厳かな鐘の音が、カラン、カラン、ゴーンと聞こえてきます。心に響きます。

コロナウィルスの自主隔離(ここではほぼ強制隔離ですが)が始まり一月が経ち、さらに少なくとも3週間は続くようです。感染者の数はうなぎのぼりです。カナダで30,000人近くになり、ケベック州は、その半分、モンリオールは更にその半分です。モンリオールが、カナダの感染者の4分の1を占めることとなります。モンリオールには旅をする人も多いのですが、宗教上の集会なども多いのかもしれませんが。理由は様々なようです。死亡者は、主に老人ホームの人が多く、衛生管理も疑問視され始めました。医者も、看護婦もヘルパーも、感染したくないと、仕事に来なくなってしまう、面倒を見る人がいなくなってしまうようです。

食品の買い出しと薬局以外の目的では外出はできず、美容室は閉まっているので髪は伸び放題。歯が痛くてもひたすら我慢でしょうか。食品の買い出しも、日に日に厳しくなり、建物の入り口でセキュリティーのチェックを受け、スーパーの前で2メートル間隔で待ち、入っても進む方向が指示され、引き返せません。人が行き交わないようにするためだそうです。間違っただけで怒鳴られてしまうこともあります。買いたいものは、さっと一度に買うこととなります。忙しいこと。戦々恐々とした雰囲気が漂っています。

ケベック州首相(州知事)や政治家たちは頑張っている。週6日、州首相は、担当大臣や医者と毎日1時間、記者会見を開き、現況や対策、経済援助などについて説明をし、質疑応答を受けています。イースターの前には、記者会見の途中で、州首相は、「ママン(お母さん),イースターに会いに行かれないけど、電話するからね、待っててね。」と、にこやかにメッセージを母親に送っていました。

経済政策は迅速に行われ、失業者(臨時も含め)には、政策がうちだされた1週間後には、申請者には2000ドルが送られてきました。暫く、毎月送られてくるようです。最低限の生活が保たれていけるようになっているようです。

さて、自主隔離の日々、ドリトル先生は、溜まりに溜まった写真の整理に余念がありません。子供時代の何枚かの写真を見ては、ぼーっとし、剣道の写真を見てはぼーっとし、子供達との写真を見てはぼーっとし、写真とともに、様々の口マンを奏でて2週間がたっていきました。そろそろ終わるころでしょう。

マダム田中は、小麦粉夫人となり、小麦粉をどさっと買い、パン作りを試みています。パン屋が閉まっているので、美味しい出来立てはのパンは買えません。パン作り、これが思ったより難しいのです。マダム田中はアバウトな性格なせいか、きちんと計量をせず、しかもカップとグラムの計量の違いを認識しなかったこともあり、できたパンの味はいまいちです。それぞれでも、出来立てはおいしく、ドリトル先生も喜んでおります。更に試練を重ね、修行中です。失敗作を雀にお裾分けするせいか、喜こぶ、食べ過ぎのグルメな雀がマツコのようになり、飛んできます。